

## 平成28年度 第5回鳥取市行財政改革推進市民委員会・会議概要

日 時：平成29年3月29日（水） 午後3時から午後5時

会 場：鳥取市役所 本庁舎4階 第4会議室

出席者：《委員》

山下 恭史 委員長、川口 耕 委員、清水 はるみ 委員、玉木 真人 委員

野口 秀治 委員、福山 裕正 委員

《鳥取市》

事務局／坂本行財政改革課長、河上行政経営係長、藤原主任、岩田主任

---

### 会議概要（事務局による要約）

#### 1. 開会

##### 河上係長：

それでは定刻になりましたので、平成28年度第5回行財政改革推進市民委員会を開催いたします。本委員会の設置要綱第5条第2項に、「委員会は委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができない」とされていますが、本日は全10名のうち6名の方にご出席いただいておりますので、本日の会議が成立していることをご報告いたします。それでは開会にあたりまして山下委員長様よりご挨拶をいただきます。

#### 2. あいさつ

##### 山下恭史委員長：

本日は時期的にも穏やかな天候ですが、先月の中旬には33年ぶりの大雪ということで、鳥取市においても停電があったり交通機関がマヒしたりと、大きな影響がありました。市民生活もかなり混乱したと思います。大雪の被害に会われた方々にはお見舞いを申し上げますとともに早い内に日常生活に戻れることをお祈りいたします。

年度末になりまして、学校の卒業式や、団体・企業の異動に伴った送別会等が開催されるなど鳥取市に少し人々の動きが出たかなと感じます。また、人々の服装が軽くなり華やかになってきたことやマスコミでも桜前線の報道されることから、ようやく春が訪れてきたと感じています。先週終了した市議会では中核市への移行や新庁舎の整備問題、長年の懸案事項であった可燃物処理施設の問題が大きく動き出したと思います。それから企業誘致の問題、移住定住等人口減少に対する対策についても着実に進められて、来年度の当初予算も市町村合併後最大の予算規模となりました。ここから見えることとして、自治体間の競争がより激しくなっているのだと思います。どの自治体でも企業誘致や人口減少が問題視されていますし、観光客の誘致も必死にやっておられるということで、地域の維持・活性化に行政は今一生懸命に取り組んでいるところです。一方、民間企業でも当然ながら生き残りをかけた競争をしてい

ます。官民一体となった地域間競争がますますヒートアップしてくるのではないかと思います。そういう中で、私達の委員会は鳥取市の取り組みに対してコメントをして大綱に定められた目標にいかにか近づけるかという視点で討論・議論をするものです。ここまで約1年弱経ちましてまさにこれからが本番だと思います。

以前の委員会は言いっ放しに終わっていて、意見の羅列しかできていない等提言がありました。そのため今年度の委員会からはできる限りある程度のプランもこの委員会の中で出していきながら、議論をして新しいものを作っていけたらと思います。再度この委員会の使命を認識しながら議論をしていきたいと思います。そういう面では委員の欠席があり残念ではありますが限られた人数と時間で有意義な会にしていけたらと思います。当初の委員会の趣旨目標に近づけていけるようにしたいと思います。皆様ご協力宜しくお願いいたします。

**河上係長：**

ありがとうございました。それでは以後の進行は山下委員長にお願いいたします。

**3. 議事**

**山下恭史委員長：**

それでは早速お手元にあります、本日の次第に沿って進めていきます。まず、議事  
(1) 平成28年度ローリング結果について報告、事務局よりご説明お願いいたします。

**岩田主任：**

～資料2、3、4、5および総合目標の進捗状況について説明～

**山下恭史委員長：**

どうもありがとうございました。今までの取り組みでご質問があれば宜しくお願いします。

この委員会が始まってからいろいろ皆さんからのご意見を頂戴したりとかそういったものも取り入れて頂いているものもありますので最終提言は出されていませんがそういったものを受けて担当課の方が平成29年度に向けての新たな取り組みをやろうとされています。何らかの形でこれまでの委員会の意見も反映されていると思いますので、皆さんからのご意見をお願いします。

**福山委員：**

地域商社について、民間の力も使いながらということになるとは思いますが、どのような役割分担といいますか、行政と民間のバランスはどのようにお考えですか。

**坂本課長：**

地域商社については7月ごろの法人化を目指しています。それまでを行政と民間、例えば地方銀行や経済団体も一緒に話合っています。例えば、株式会社化するにも行政の出資をどの程度にするかなどまだ詳細が決まっていないので、そのあたりを今

後検討して7月の法人化を目指しています。先ほど岩田主任より3つ説明しましたが、例えば山口県長門市がやっているながと物産合同会社のような、大都市圏の高級レストラン・高級スーパー等の顧客に直接農水産物を卸すといった事業についてはもうすでに取り組みを始めております。4月10日より大阪中之島でリニューアルオープンする「麒麟のまち」というところで鳥取の農産物・水産物を使った日本料理を提供します。そこの運営を商社に任せることが決まっています。それ以外にも平成29年度には農業振興課の事業ですが、神戸の高級洋菓子店でこういった農産物のニーズがあるかを地域商社に調査委託することに決まりまして、そういった形で、高知県がやっているようなマーケティングを商品開発に取り入れるという取り組みも進んでいます。その後の地域商社としての将来像については、鳥取市からの委託だけではなく東部4町も関わってくるのでまだ具体的には決まっていません。4月から7月にかけてしっかりと検討して決めていこうと考えているところです。

**福山委員：**

スタートラインから官民一体でという段取りはできているということですね。

**坂本課長：**

はい。

**山下恭史委員長：**

その他ありませんか。

**清水委員：**

資料4の裏ID19にある新たな取り組みで、民間事業者に広めていくアドバイザーを配置とありますが、多様な業種や零細企業が多い鳥取において、具体的にはどのような動きを考えておられますか。ID37農林水産物の国内外への新規販路開拓について販路が拡大や6次産業化が進めば利益につながりますが、ただ現在人材不足が言われています。その点の対策はどのようにお考えですか。

**坂本課長：**

1つ目の働き方改革については経済・雇用戦略課の所管になる事業です。ワーク・ライフ・バランスを向上していくために働き方アドバイザーを経済・雇用戦略課に専門職員を配置します。鳥取市の民間企業ではワーク・ライフ・バランスについて、例えば妊娠すると今の会社に居づらくなるのではと感じて、なかなか妊娠・出産・子育てに踏み切れないことがあるかもしれません。行政では率先して育児休業制度、育児の短時間勤務制度を取り入れています。まだまだ民間ではそのような制度が充実していないのでそのような制度を導入するための助言をアドバイザーができたらと考えています。

6次産業化についてですが、個人生産者の方が自分の力だけで6次産業までもっていくのは容易ではありません。ですからその後押しをする方法の一つとして、生産者の方に作物の情報などを入れて頂いて、加工業者はその情報を見ながら取引をしてい

くというシステムを導入します。昨年の9月に予算を付けて、平成29年度から稼働する予定です。そのシステムの利用でお金を取ろうとは考えておりませんので、小規模の生産者の方にもどんどん情報を入れて頂いて、都市部の加工業者がそこから情報をキャッチして頂いてそれが大型の取引に繋がっていけばいいと思います。さらに先ほどの地域商社でも、日本全体をターゲットとして見据えていますので、全国から大型取引を引っ張ってこれたらと考えています。しかしながら、取引先が求めるロットを安定的に生産できる体制というか基盤が十分ではない部分もありますので、そのあたりの強化などを含めいろんな仕掛けを考えていこうとしています。

**清水委員：**

そのシステムはよくわかります。農業関係者も加工の方が利益が出るまた販路を拡大することで自分の生産物のブランドがPRできると言われます。ですが現実には人材が東京に一極集中しています。そのためいくら良いシステムができて、多くの情報が入手できるようになっても、優秀な人材・やる気のある人材がいなかった場合にはそれが活かしきれないと思います。そういった人材不足の点についてはどう考えておられますか。

**坂本課長：**

若い人たちが積極的に仕事として農業を選択できるように、そしてその仕事をするために鳥取に移住してくれるようになると理想的かと思います。若い人たちの雇用の確保、そして生産者の労働力確保の観点からも今後も有効な取り組みを検討していきます。

**清水委員：**

期待したいと思います。

**山下恭史委員長：**

中間地点でのご報告についての質疑・応答は以上にしたいと思います。

続きまして、議事（2）4つのIDに対する委員会意見の取りまとめに移りたいと思います。資料6の説明を宜しくお願いします。

**岩田主任：**

～資料6について説明～

**山下恭史委員長：**

確認をさせていただきます。今まで委員会で出た個別のご意見というものについて、この資料に抜粋していただいています。今日の委員会としては評価シートの「行財政改革推進市民委員会の意見」というところに書き込むコメントを取りまとめればいわけですね。

**岩田主任：**

はい。そうです。

**山下恭史委員長：**

各項目15分程度皆様のご意見をお聞きしたいと思います。今日中に成文化までは難しいと思いますが、出来る限りまとめていきたいと思っています。今回は意見交換をして委員会としての素案にできる程度までもっていったらいいなと思っています。

**玉木委員：**

外国人観光客の宿泊に関する成果指標のところ、サポートセンターにおいてアンケートを実施するよりは宿泊施設でアンケート実施する等で宿泊者からの情報を得る方が有意義だと思います。

あと質問ですが東部DMOはこのIDと関係はありますか？

**岩田主任：**

最終的には東部DMOもID28と関連してきますが、メインで進めているのは別のIDです。ID4がそれに該当します。今年度は瑞風の誘致とか観光プランの構築といった取り組みを行いました。それが来年度に向けてはDMOという、観光の総合プロデュースができる団体の設立に向けて内容を発展させていく予定です。

**山下恭史委員長：**

玉木委員の意見としては成果指標として宿泊者数のデータも参考にすべきだということですね。

**玉木委員：**

窓口の外国人数よりは、宿泊者数の方が経済効果が分かるのではないかと思います。

**山下恭史委員長：**

指標の事が出たので、皆様にお聞きしたいのですが、担当課はサポートセンターの窓口に来られる人数を指標と捉えていて平成28年6220人、平成29年6700人となっています。宿泊者数のデータについては県が取りまとめているので取得は可能ということですね。

**岩田主任：**

時間はかかりますが、県が取りまとめているので取得可能です。

**山下恭史委員長：**

このことについて川口委員はどのように考えますか。

**川口委員：**

消費時間を念頭に置いた指標を設定すべきだと思います。

話が変わりますが、仮に意見として出すのであれば、山下委員長がおっしゃったサポートセンターの運営というものがとても大事だと考えます。現状どうすべきということは我々が言い切ることはできませんが、観光コンベンション協会との連携が重要だと思います。観光案内所と観光サポートセンターが連携をしっかりと図って、外国人観光客に対する対応の充実や満足度向上に努めて頂きたいです。

**山下恭史委員長：**

他の方はどうですか。

**福山委員：**

元に戻りますが、サポートセンターの数字と実際の数字の割合は何%くらいですか？

**岩田主任：**

以前委員会の中で、山下委員長がおっしゃったような、駅の総合窓口に来られている人の人数もありますし、サポートセンターに来られる人の人数もあります。ただ、鳥取市に来てはいるがそのような窓口を利用されていない方の人数というのが、現状では把握できておらず割合を出すのは難しいかと思います。

**福山委員：**

全体の数字を出すために、サポートセンターのカウントがだいたい何割くらいになるのか分かればいいのですが。そうすれば経済効果についても分かるのではないかと思います。宿泊の数は分かるとのことでしたので、例えばそれとサポートセンターの来客数とかで概算でも出せばいいかと思います。

**山下恭史委員長：**

今手元には鳥取市の宿泊者データはありませんが、ただそのデータを取っていくことは不可能ではないと思いますね。

**河上係長：**

ちなみに、山下委員長に以前お話を頂いたのは案内所には1万6千人程度でサポートセンターの倍以上の人数が来られていますとありました。

**山下恭史委員長：**

本当は鳥取市に来られる外国人の数・宿泊者数のデータが取ればそれを基に指標を作ればベストだということですね。それでも難しいということならば、それに代わるベターな指標を模索してみてもどうかということですね。今はサポートセンターと観光案内所の数値が2倍以上開いているので、サポートセンターの数値を指標として利用するのはいかがなものかということですね。観光案内所についても鳥取市は観光コンベンション協会に委託しているわけなので、数値として活用しない手はないと思います。

それと業務連携の話ですが、現状の観光案内所は1組来られるだけで、手いっぱいになるので、外国人が来られた時には最初からサポートセンターに誘導してもらうことでしっかりと地域のPRもして行ってほしいと思います。観光案内所を利用する7万7千人の内1万6千人が外国人であるという現状を、逆に言うとそれだけの外国人観光客を、機械的にさばいてしまっていると考えられることもできます。本当に滞在していただくためのPRをするには観光案内所では十分な対応はできないと思いますので、サポートセンターでじっくり対応してもらえるように、業務連携や一本化が必要では

思います。

**福山委員：**

参考になるか分かりませんが、私は大相撲が好きなので、毎年大阪府立体育館に行きます。4～5年前までは外国人は数人しかいませんでしたが、今年の1月に行ったところすごい人数の外国人がいました。外国人を商売の顧客として捉えるべきだと痛感して帰って参りました。今後はもっと外国人が増えていく傾向があると思います。

**山下恭史委員長：**

ありがとうございます。ではこのあたりでまとめたと思います。指標の件については先ほどの意見をベースにしたいと思います。

**岩田主任：**

データをしっかり分析して下さいとのご意見については、今後DMOの取り組みを進めていく中でいろいろな数字を分析しながら決めていかないといけないと担当課も考えておりますので、これに関しては順調に進んでいくと思います。指標については様々なご提案をいただきましたが、総意としては宿泊者数で宜しいですか。

**坂本課長：**

成果指標については、委員会として「この指標にすべきだ」とピンポイントでご提言いただく方法もありますし、「妥当性にかけるのでしっかりと再検討すべき」とするのどちらかのまとめ方になるかと思えます。

こちらとしては「妥当性に欠けるので見直すこと」としていただければありがたいかなと思います。といいますのも、外国人観光客の誘客については来年度新規事業もあるので指標の取り方はまだまだ変わってくる可能性があります。例えば来年大阪難波O C A Tのバスを外国人に限って定額で鳥取市に引っ張ってくる制度も作りますし、ゲストハウスの整備も来年取り掛かります。いろいろな取組が増えるので指標のありようも変化していくかもしれませんし、もう一つの理由としてはこのご提言をこのI Dだけでなく他のI Dにも水平展開しやすくなるということがあります。ですのであくまで事務局サイドとしてはその方がありがたいなとは思っています。

**山下恭史委員長：**

基本的に冒頭に申し上げたように、成文化までは、当然この段階ではできないと思います。最終的には事務局と相談しながら意見として文にまとめたものをどうしようかということを次回の委員会ですでたいと思います。皆さんの意見を伺いながら行財政改革課としては全体的に水平展開していきたいとのことなので、そこに使えるような意見が必要なので、そこは了承を頂いて取りまとめていきたいと思っています。よろしいでしょうか。

**清水委員：**

実施した事業についてしっかりと成果を振り返る必要があります。そういった検証ができるようなものにしていただきたいと思います。

**山下恭史委員長：**

それは、大前提として当然内部でもされると思いますし、最終的には私たちの外部評価のところに出てくると思いますので期待しましょう。

では次のID37に移りたいと思います。

この中で特に委員会として強調したいことがあればご意見を下さい。

**川口委員：**

指標案で付加価値額とあります。経済で言えば経済効果にあたる場所だと思いますが、実際の数値として出てくるものでしょうか。

**坂本課長：**

難しいと思います。

**山下恭史委員長：**

そうですね厳密な数字は無理だと思います。各事業者の経費を把握して売買価格がいくらで、いくつ売れたか、生産コストがいくらか、技術コストがいくらかというようなことを全部はじいていかないといけないので、それはできないと思います。鳥取市が施策としてそこまで把握すべきかという問題もあると思います。

質問を挟みますが、「取り組みの結果が分かりやすい成果指標の設定」というところに委員会で検討とありますが、これは市の内部委員会のことですか。

**岩田主任：**

いいえ、市民委員会のことです。

**山下恭史委員長：**

この市民委員会でもう少し意見を出した方がいいということですね。

担当課としては大手企業とのマッチング数を明確な指標と捉えられていますが、私達外部の目から見たらどうですかというご意見が欲しいということですね。

皆さんどのように感じるかご意見を下さい。

**川口委員：**

この点で山下副委員長が問題視されたのは、マッチング数が累計になっているということでしたか。

**山下恭史委員長：**

累計についてはまた次のID38に出てくることです。

**川口委員：**

ここにあるのは年ごとのマッチング数という事ですか。

**岩田主任：**

そうです。

これまでの意見としては、大手企業との契約と一口に行ったときに、鳥取市内の特定の一社とだけの契約と、市内の複数業者との契約とでは効果や意味合いが変わってくるのではないかと。であれば、県外の手続きと契約というよりも鳥取市内の業者



が県外の業者とどれだけ契約が成立したかという逆の発想ではどうかというご提案がありました。

**福山委員：**

なかなか難しいですね。

**河上係長：**

指標の話が複数出てきていますので、先ほどの議論でもあったように「検討の余地がある」というような括りでも良いのではと思います。

**山下恭史委員長：**

ではここもそのようにまとめていきましょうか。

他に指標以外のところではどうですか。

先ほどの委員の意見も含めて原案を作らせて頂いて宜しいですか。

**清水委員：**

取組の例として、東京農業大学が自分たちで作った品質のいいお米を使用して酒造メーカーと提携してお酒造りをされています。私自身その製品を購入しています。このような事例がこのシートからは形として見えてこないです。

それから地産地消というものも重要だと思います。高校生や大学生の多くが県外に出てしまう状況がありますが、地産地消を通じて鳥取にはこんなにおいしいものがあるとか、地域への愛着といったことを育んでいくことができれば、県内に留まってくれる若者も増えるのではないかと思います。

一方で、これだけ人口が減ってきている状況では、国内販売と併せて輸出の部分を今後どのようにしていくのが課題だとも思います。

**山下恭史委員長：**

ありがとうございます。では先ほどの委員の意見も含めて原案を作らせて頂いて宜しいですか。

**各委員：**

(同意)

**山下恭史委員長：**

次にI D 3 8に移りたいと思います。ここは先ほど川口委員さんからお話があった、指標がすでにやめられた事業者も含めた累積になっているのではというご意見があったところです。

それから、市が主体となるよりは民間の方がノウハウを持っているので、そちらに任せた方がうまくいくのではという意見もでておりました。これに対して担当課からは、現在民間企業、金融機関、研究機関、商工会議所と連携を図って行っていますという回答がされています。

これらについて、ご意見としてはどうですか。玉木委員どうぞ。

**玉木委員：**

いろいろな方が関わってくる事業で、その中の役割として市が主に何を取り組むのかがこのシートからは見えにくいと思います。先ほどの説明でもあったように、今後地域商社の設立に向かってこのようなことをするとか、そういったものがこの中で具体的に表現されるといいかと思います。

**岩田主任：**

指標も含めて見えやすくということですか。

**玉木委員：**

そうですね。

**清水委員：**

行政というものはやはり大事な役割を持っていると思います。地方なので、東京みたいに現在何が流行しているのか今何が儲かっているのかという情報キャッチが遅れていると思います。そういう情報を収集していく役目は行政に必要なと感じます。そういうシステムを構築してほしいです。

**山下恭史委員長：**

このID38は地元産品の開発促進のために、そういったことに取り組む事業者を補助制度も活用しながら増やしていきましようというものです。併せて6次化情報バンクの事業化に向けた取り組みもなされています。こういったものを通じて、先ほど清水委員のお話にあったような、情報収集と発信をやっていただくということでしょうか。

**福山委員：**

私達がしなければならない仕事というものに成果指標をどうするかということに意見を出すことだが、とても難しいですね。そもそもこの4つのIDを議題に選定した理由は指標が判断しにくいから出てきたものでしたか。

**山下恭史委員長：**

鳥取市としての主要な取り組みとして挙げられているものと、市民委員会として興味があるものでマッチングしたIDをピックアップしています。その中で1度にすべてはできないので今回4つを取り上げています。

**福山委員：**

こういった地域を活性化させる取り組みをたくさんされているのは分かります。ただ、これらを評価するときどういう指標を使うのか、例えばお店が何軒増えただけでなく売り上げがどれくらい伸びたのかというものを縦軸と横軸で見るような考えも必要かも知れないと思います。

**清水委員：**

全体から見て経済が活性化していかないと財源が集まらないと思います。雇用にも繋がりますし。

**山下恭史委員長：**

個人的な考え方ですが、このID38は事業者に一步前に踏み出してもらう為に補助金を出しているものだと思います。新しい6次産業を生み出していこうという施策ですね。もちろんこの中からは成長していく企業も出てくると思いますし、やめてしまう企業もあると思います。ただ、ここでの目標としてはそのきっかけづくりを年間に最低6社ずつ増やしていきましょうというものです。次にステップアップするための施策は別に組まれているはずなので、そこは分けて議論すれば良いと思います。

**福山委員：**

実例として、鳥取市雇用創造協議会と日本財団のおかげで用瀬のお茶のドレッシングがほぼ出来上がりこれから販売に入ります。このようにこの事業を通してまったく考えもつかなかった画期的なアイデアが生まれてくれば良いと思いますし、それを評価できる指標が出来たら良いと思います。

**清水委員：**

ただ、成果が上がらなければいけないと思いますので、底上げしていけるようなものでないといけないと思います。

**福山委員：**

それが現状鳥取市では年6件増やしていこうということで考えておられるということですよ。

**山下恭史委員長：**

実績としては平成27年度に累積で47社だったものが平成28年度は50社となりプラス3社です。6社増やそうと思ったけれども、3社しか増えていませんという状況ですね。

時間がないので意見交換は以上にして原案は別途作りたと思います。よろしいですか。

**各委員：**

(同意)

**山下恭史委員長：**

では最後、ID75砂像のまちとつとりの推進ということで、ここでは住民意識の醸成、国内外への情報発信、砂像を使った商品の造成が大きな目標となっております。

具体的な数値目標では、砂の美術館の入館者数が一時期50万人を超えていたのですがここ2年間は50万人を切ってしまっています。目標となる50万人に向けて、周辺の環境整備や意識高揚も含めた砂像まちづくりの推進と、対外的な情報発信に努めていこうという施策だと思います。皆さんのご意見については資料に記載してある通りですが。玉木委員どうですか。

**玉木委員：**

私は地域住民の盛り上がりを促すべきだと思いますのでそのまま結構です。

**山下恭史委員長：**

引き続き定着させる努力をさせて下さいということですね。

**川口委員：**

入館数50万人は高い目標だと思いますので、私もこのままの成果指標で良いと思います。砂像選手権とかのPRも力を入れてやって頂いて、砂の美術館+αを増やして行ってほしいです。

**山下恭史委員長：**

他は宜しいですか。

**福山委員：**

この取り組みは目標が数値としてはっきりしているから分かりやすいですね。

**山下恭史委員長：**

そうですね。指標についてはその通りだと思います。それ以外の所だと、前のご意見の中で砂の美術館だけではなく回遊性を高めてほしいというものもありました。鳥取市の一番大きな観光資源でもあるのでしっかりと力を入れて行ってほしいです。では4つのIDについては終わりにしたいと思います。

続きまして今後の協議テーマの設定について話合いたいと思います。

次回取り上げてほしいテーマがあればご意見を下さい。なければ当初皆様から議論してみたいテーマを頂いておりますので、その中から事務局と相談しながら決定したいと思います。限られたスケジュールの中ではありますが、抽出した一部のIDだけ議論していった他のIDには触れないというわけにはいかないと思いますので、そのあたりのことも考えながら決めていきたいと思います。

また行革大綱の総合目標について中間報告がなされました。そういった物に対しての意見交換・議論の場の委員会も必要だと思っています。

これはぜひ取り上げてほしい事業・IDがあればお聞きして参考にしたいと思います。

**福山委員：**

交流人口の拡大にすごく興味があるので、良ければ挙げて欲しいです。

**山下恭史委員長：**

IDでいうと28と75ですかね。

**福山委員：**

U・Iターンとかもです。

**山下恭史委員長：**

総合目標にもありますように、人口に関することがとても大事なテーマだと思いますので、交流人口についてはやる機会があればぜひ取り上げたいと思います。

**清水委員：**

鳥取に愛着を持って鳥取に住みたいなと思えるそういう優秀な人材を自治体を中心

になって育成教育して欲しいです。地方でもやっていくことができる成果があがる人材をつくってほしいです。

**山下恭史委員長：**

議論ができればやりましょう。

**福山委員：**

予定ですが平成29年度は何回委員会がありますか。

**岩田主任：**

平成29年度は7回を予定しています。次回は5月頃を予定しています。

**山下恭史委員長：**

協議テーマに関しては、皆様から当初寄せられた意見と鳥取市の優先課題を合わせて決めていきたいと思います。先ほどもありましたが形によってはフリートーク形式になるところもあるかもしれませんが、何かの機会に取り上げられたらと思います。

議題に関することは以上で終わりにしたいと思います。あとは事務局宜しくお願ひします。

**河上係長：**

確認したいのですが、このID4つについてはもう一度精査しなければならないものがあつたようにも思えますが、今後はどうしますか。これらのIDは今回で終わりとしてますか。それとも続けますか。

**山下恭史委員長：**

今回の意見を踏まえて原案を作りましょう。次回の委員会までには原案を提示しますので、もう少し掘り下げたいということであればそこで議論すれば良いと思います。しかし、今の議論を聞いていた中では、そんなに掘り下げるところまでいくとは思えません。

**清水委員：**

資料をみて今すぐにはなかなか難しいと思います。

**河上係長：**

資料を持ち帰って何かあれば4月の早い内にお願ひします。

**山下恭史委員長：**

基本的には1回資料を見て、何かあれば出して頂きたいと思います。

**河上係長：**

出来れば1週間程度で意見をメール等で頂ければと思います。

## 5. 閉会

**山下恭史委員長：**

これで一通り予定された日程は終了です。他に皆さんから何もなければこれで終了したいと思います。よろしいですか。

では以上を持ちまして、第5回鳥取市行財政改革推進市民委員会を閉会します。ありがとうございました。

---